

## 21世紀の日本のかたち（46）

### — 地域学（その3） 新宿学 —



戸沼幸市  
＜（財）日本開発構想研究所 理事長＞

#### 1. 新宿学の主題と範囲

世界都市東京の新都心新宿は、関東は武蔵野台地の東端に芽吹き、特異な進化を続けている前衛都市です。

一日350万人が交叉交流する「新宿」という都市とは何か？ 何処から来て何処へ向かうのか？

巨大なエネルギーを消費する新宿は一体何を生産する文明装置なのか、この都市で作られている情報にどんな意味があるのか。時代の先端を走り続けているこの都市に集まる人々の生き様、生活様式、都市文化はどのようなものか、どんな意味があるのか。予想される東京直下地震に備えはできているか。

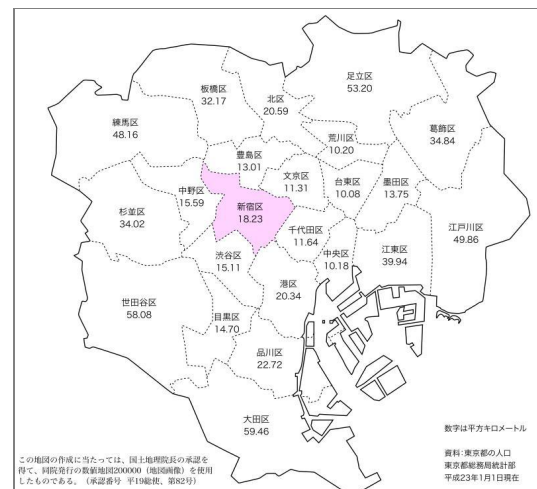
現在、新宿区民の1割以上は外国籍です。新宿は多文化共生時代に入っています。

新宿の「人と街」の歴史を出発点から学び、その未来を文明的に展望するのが「新宿学」の主題です。

ここで取り上げる新宿の地理的範囲は、発生の起点となった新宿追分を含む新宿駅周辺地域とし、現行政単位である新宿区を視野に置きます。

新宿区は東京23区のほぼ中央に位置し、東西約6.5km、南北約6.3km、面積は18km<sup>2</sup>、夜間人口31.8万人（H23.10.1現在）です。新宿は、渋谷、豊島（池袋）とともに、東京都では副都心区に位置づけられています。

#### 新宿区の位置と面積



資料：「東京都の人口」（東京都総務局統計部）平成23年1月1日現在

この空間を埋めている現在の市街地は、業務・商業機能が集積している新宿駅周辺地域があります。新宿には大きな緑地空間、新宿御苑、神宮外苑もあります。

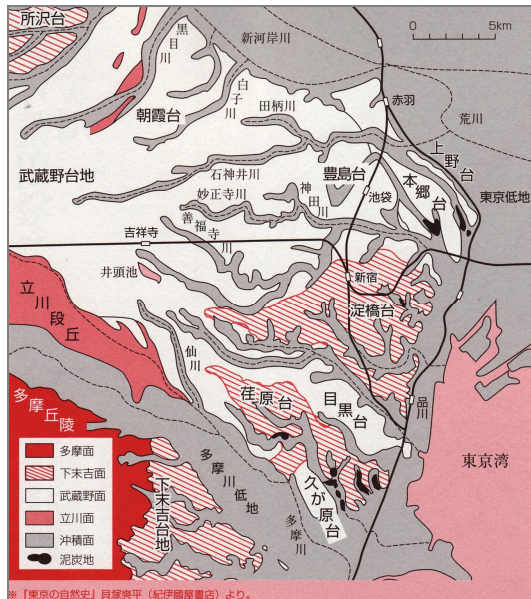
新宿区は流動人口の大きい商業業務都市ですが、区域全体に商空間と混在するかたちで住宅地が息づいています。

新宿は武蔵野台地の東端にあり、海拔30～35mの北側の平坦な台地から、海拔10mほどの低地、神田川の流域に向かって、10m刻みの階段状の斜面地となっています。

新宿の区境は、東に外濠、北と西は神田川であり、妙正寺川が落合の低地を西へ流れています。この地理地形に長い年月の間に築かれた特異な

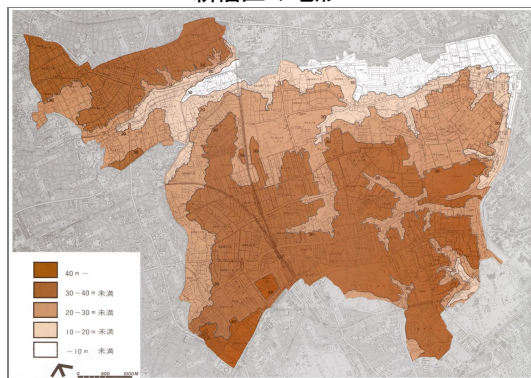
人間居住について、江戸以前、近世の江戸、近代の明治、大正～昭和前期、昭和後期、平成～現在と時代区分して地域を歩いて学習するのが「新宿学」の方法です。そして新宿の未来図を画くことを目論みます。

### 東京の台地



資料：「江戸・東京の地理と地名」（鈴木理生著 日本実業出版社発行）2006年（原図は「東京の自然史」貝塚爽平著 紀伊國屋書店発行 1964年）

### 新宿区の地形



資料：「図と表で見る新宿区のすがた」（新宿区役所企画部発行）1986年

## 2. 都市と災害

文明化された21世紀の都市において、世紀初頭のほんの10年間で様々な人的、自然的災害が次々に起こっています。

まず、2001.9.11のアメリカ・ニューヨーク・

WTC、航空機によるテロ爆破事件。これは世界の人々の眼前で起こりました。また戦争による都市破壊は今も中近東などで絶えません。

地震台風などによる自然災害の都市破壊についても、2008年のミャンマー・サイクロン、中国・四川省大地震が起きました。日本においては、1995年の阪神淡路大震災に続いて、2011.3.11の東日本大震災です。これには原発事故が重なって深刻です。

人間、人間居住の歴史、都市の歴史は災害と向合い、これを乗り越え、これを内包してゆく歴史ともいえます。

都市・地域の歴史は災害によって節付けられた歴史です。そして、それに対する人間の復旧、復興の物語です。「新宿学」においても都市と災害問題は主題の一つです。

## 3. 東京・新宿に見る災害と復興

「新宿学」は早稲田大学エクステンションセンター講座の一つとして、2004年春に開設され、多くの講師を招いて、2011年春学期までに150回の講義を行いました。この春学期直前に3.11東日本大震災が起り、この影響が新宿にも及びました。改めて新宿の災害史についても考えることになりました。東京・新宿の歴史には関東大震災と、先の戦災がくつきりと刻みつけられています。

### 【関東大地震】

関東大地震（1923年9月1日、震源地：相模湾北西部、M7.9）によって、東京市、横浜市は壊滅しました。

東京（府）の被災状況、死者不明者7万人余、負傷者2万人余、東京府全人口の47%、190万人余が罹災。全焼30万世帯余、被害世帯数39.7万と報告（「東京百年史」東京都）されています。とにかく火災による被災が多かったのです。当時の

東京は人口増加の下、木質系の住宅・建築の密集市街でした。上下水道、道路も貧弱なものでした。ここに大地震が襲ったのです。旧来の都市の弱点が突かれたともいえます。

東京山の手に位置する新宿は牛込地区などが被災しましたが、下町の大惨事に対して比較的軽微でした。この状況で新宿は下町からの避難地として大きな役割を果たしました。そしてその後、帝都発展のバックヤードの新しい拠点として、その役割を担うことになったのです。

#### 関東大震災で倒壊した牛込改代町の家屋

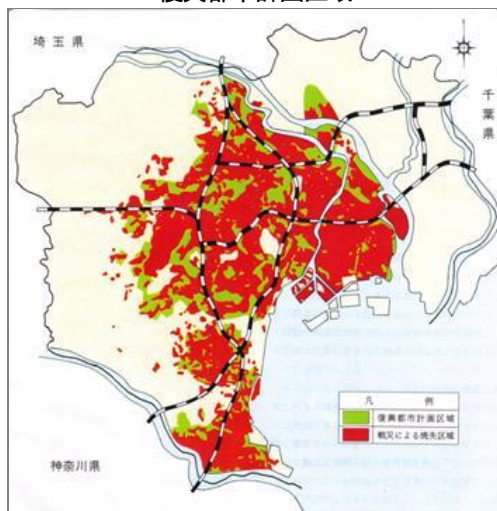


倒壊した牛込改代町の家屋（『東京震災史』より／新宿歴史博物館蔵）。

資料：「新宿区資料」

東京の立直りは復旧ではなく、震災を逆バネとしたまさに復興、帝都復興でした。国策として帝都復興院（総裁：内務大臣後藤新平）が立上げられ、

#### 復興都市計画区域



出典：「甦った東京 東京都戦災復興土地区画整理事業誌」（東京都建設局区画整理部計画課）1987年

巨額な予算が投じられ、新しい都市計画が実施されました。区画整理、建築の不燃化・共同化事業、幹線道路づくり、公園づくりなどの実績は今の東京の支えにもなっています。

#### 【戦災】

第二次世界大戦末期、連合国の空爆により、東京、横浜、名古屋、大阪、神戸などの大都市をはじめ、215都市が被災しました。この中には、広島、長崎の原爆による破壊も入ります。

帝都東京は、昭和17年から昭和20年8月の終戦まで、100回にも及ぶ空爆によって壊滅状態になりました。その被害は死者88,250人、負傷者62,106人、全焼全壊家屋851,166戸、半壊家屋7,217戸、罹災者2,578,150名（内務省調査）に及ぶと記録されています。

新宿もまた、旧牛込区、淀橋区、四谷区と全面的に被爆被災しました。終戦直後の混乱と困難、そしてそれから立直ろうとする人々の懸命な生き様は、日本の戦後史の一コマであり、戦災からの復旧、復興の新宿都市物語です。

「昭和20年の新宿。5月25日の大空襲で、幼時を過ごした我が家も、18年続いた父の書店も、それ以前からあった家業の炭屋も跡形もなく消えて、廃墟と化した。小学校6年生だった私は昭和20年10月、集団疎開先の信州から帰り、ひとりその焼け跡に立ち尽くす。この時の光景が私の新宿の原点である。闇市が出来、バラックが建ち、その年の暮れには父の書店も曲がりなりにも再開した。」

これは新宿学「私と新宿」シリーズで話してくれた当時の紀伊國屋書店副会長、故田邊禮一さんの講義録の一文です。

戦災直後、内閣直轄の組織として戦災復興院が組織され、戦災地復興計画基本方針のもと戦災都市で復興が開始されました。東京においても東京

都戦災復興都市計画が打ち出されました。

過大都市東京の抑制策に合わせて、幹線道路などのインフラ整備、緑地整備、全面的土地区画整理による市街地再生は、戦後都市計画家たちの大きな仕事でした。これに暮らしと仕事場づくりが重なってゆきました。

新宿においても新宿駅周辺は復旧、復興の拠点でした。その一つに、被災地の住人、民間人が主役となって創り上げたユニークな繁華街、「歌舞伎町」などがあります。

#### 4. 新宿の近未来

戦後65年の間に新宿は大きく変貌しました。今や1日350万人の乗降客を持つ世界最大級のターミナル新宿駅があり、西口には超高層オフィス街が出来ました。ここに東京都庁舎も移転（1991年）し、新宿は東京の新都心となりました。

東口地区は「内藤新宿」以来の盛り場で、二度の大災害を乗り越えて、時代を重ね、世界の人々の交叉するアジア的繁華街として賑わっております。

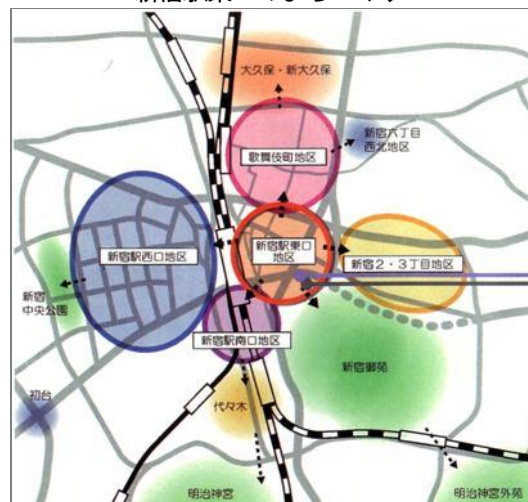
現在、新宿は歴史の大波、世界化（グローバル）、情報化の波を間断なく受け、人、物、経済、情報の集散する巨大なプラットフォームの観があります。同時に、この65年間に蓄積された都市ストックに劣化も見られます。ニューヨーク・テロ事件の同年9月1日、歌舞伎町の雑居ビルで火災が起き、従業員と客、計44人が死亡しました。歌舞伎町では防災に加え、大都市型の防犯も課題となりました。

これに対して、「歌舞伎町ルネッサンス推進協議会」が地元商店街の人々と都、区などの行政が一体となって立ち上げられ、これに取組みをはじめています。新宿駅東口商業地区を範囲として「新宿EAST推進協議会」も今年、地元主導でつくられ、タウンマネジメント（都市経営）の観点から近

未来の都市像を探っております。

新宿駅西口地区でも、長い間JR山手線がバリアとなって分断されていた西口と東口をつなぐ東西自由通路計画に合わせて、更なる新都市への脱皮を図っています。

新宿駅東口のまちづくり



資料:「新宿区資料」

「新宿学」はこのような新宿区の近未来への動きについても関心を持っています。

「新宿学」は早稲田大学のプログラムの一つとして運営されていますが、これと併行して私自身が世話人となっている「新宿研究会」（2004年設立）があります。これは、新宿の老舗、新宿高野・タカノフルーツパーラーの先代高野吉太郎さんたちと新宿の未来を語り合った折に、これからの新宿について、地域の具体的問題に突合わせて、地元商店街が一体となって勉強する機会を持つべしということになりました。「新宿研究会」は地元商店街振興組合の方々と学識者が集ってつくった勉強会です。新宿区長の中山弘子さんも参加してくれています。

東京・新宿を取巻く、近未来の大小の状況の中には、予想される東京直下地震も視野に入ります。

「新宿学」はこれにも踏み込んでみたいと考えているところです。

## 新宿東口の近未来

新宿の東西を結ぶ「淀橋・追分・御苑 - 散策大路・中路・小路」の提案



新宿の発展 東口界隈から西口、南口へ、  
そして再び東口界隈の時代へ。



歩きたくなるまち新宿  
たくさんの人が回遊する街 緑の回廊で東西をつなぐ



(新宿研究会作成)



(2011. 10. 15)